

令和7年1月23日
奄美海上保安部

【問い合わせ先】

奄美海上保安部

交通課長 古川 忠文

電話：0997-53-5569



令和6年奄美群島周辺海域における 海の事故発生状況について（速報）

1 船舶事故

●船舶事故17隻（死者・行方不明者0人） 前年比+7

船舶種類別では、プレジャーボートが6隻と最も多く、次いで漁船4隻、貨物船3隻、作業船2隻の順となっています。

事故種類別では、機関故障や推進器障害等による運航不能が7隻と最も多く、次いで転覆4隻、乗揚3隻、衝突2隻、浸水1隻の順となっています。

なお、船舶事故に伴う乗船者の死者・行方不明者は、前年と同様ゼロでした。

(1) 船舶種類別の推移〔単位：隻〕

【速報値】

船舶種類	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
プレジャーボート	4	6	5	4	6
漁船	8	5	2	3	4
貨物船	2	0	0	0	3
作業船	0	0	1	0	2
旅客船	0	0	2	2	1
遊漁船	0	0	0	0	1
タンカー	0	0	0	1	0
合計	14	11	10	10	17

(2) 船舶事故種類別の推移 [単位：隻]

【速報値】

事故種類	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
運航不能	4	5	6	5	7
転覆	2	1	0	0	4
乗揚	6	3	4	4	3
衝突	2	0	0	1	2
浸水	0	1	0	0	1
その他	0	1	0	0	0
合計	14	11	10	10	17

※ 運航不能とは、機関故障、舵故障、無人漂流等をいう。

2 人身事故

●人身事故20人（死者・行方不明者9人） 前年比－4人

マリンレジャーに伴う海浜事故が9人と最も多くなっています。活動内容別では、遊泳中4人、釣り中2人、ダイビング中1人、サーフィン中1人、磯遊び中1人でした。

奄美群島外在住者による事故は、6人で昨年から減少していますが全体の3割を占めています。

事故数及び事故に伴う死者・行方不明者数の推移 [単位：人]

【速報値】

事故区分	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
マリンレジャーに伴う海浜事故	11 (4)	14 (7)	13 (10)	13 (9)	9 (3)
マリンレジャー以外の海浜事故	6 (0)	8 (2)	14 (4)	9 (0)	7 (0)
船舶事故以外の乗船中の事故	5 (4)	4 (2)	2 (1)	2 (1)	4 (3)
合計	22 (8)	26 (11)	29 (15)	24 (10)	20 (6)
死者・行方不明者	8 (1)	12 (3)	15 (6)	11 (4)	9 (3)

() 内…奄美群島外 在住者人数

※ マリンレジャーに伴う海浜事故

…余暇活動に伴って発生した海洋において事故（海水浴、釣り、サーフィン等）

マリンレジャー以外の海浜事故

…余暇活動に伴うもの以外で発生した海洋において事故（車両等の海中転落等）

船舶事故以外の乗船中の事故

…船舶事故以外の事由により発生した船舶の乗船者の事故（海中転落、負傷、病気等）

マリンレジャーに伴う海浜事故の内訳〔単位：人〕

【速報値】

活動区分	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
遊泳中	2 (0)	9 (5)	7 (6)	7 (7)	4 (2)
釣り中	2 (1)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)
スクーパーダイビング中	4 (3)	1 (1)	4 (3)	1 (1)	1 (1)
サーフィン中	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
磯遊び中	2 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)
SUP中	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ボートセーリング中	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	11 (4)	14 (7)	13 (10)	13 (9)	9 (3)
死者・行方不明者	6 (1)	5 (2)	7 (5)	6 (4)	3 (2)

() 内…奄美群島外 在住者人数

3 事故事例

(1) 船舶事故

①転覆

令和6年4月20日、喜界島湾港で、小型作業船が砂利運搬船の係留策を離す作業中にバランスを崩し転覆しました。

乗組員6人は海に投げ出されましたが、転覆した小型作業船の船底の上に移りその後漁船に救助されました。

②乗揚

令和6年7月30日、奄美市笠利町赤木名沖で種子島から赤木名港へ向け航行中の砂利運搬船が浅瀬に乗揚げました。砂利運搬船はその後自力で離礁しました。乗組員に怪我等はなく、油の流出はありませんでした。

(2) 人身事故

①遊泳中

令和6年7月14日、徳之島天城町与名間ビーチで、家族4人（事故者と両親、妹）で、波打ち際で遊んでいたところ、両親が妹に目を向けていた間に女兒5歳を見失い、探したところ浮いているのを発見、意識がない状態でしたが現場に居合わせた消防職員により心肺蘇生を実施し意識が回復、ドクターヘリで病院へ搬送されました。

②釣り中

令和6年5月19日、奄美市名瀬港の観光船岸壁北部の突堤で釣りをしていた60代男性が足を滑らして海中転落しました。男性から携帯電話で連絡を受けた妻が海上保安部に通報し救助され病院へ搬送されました。

4 奄美海上保安部の取り組み

(1) 船舶事故

昨年は、例年と同様にプレジャーボートと漁船の事故が多く、また前年には発生の無い貨物船の事故が3隻、作業船の事故が2隻発生し、前年比7隻増加となりました。

事故内容の特徴として、2月にシーカヤック3隻の荒天による運航不能、8月に台風10号による係留中の漁船等3隻の浸水、転覆、また、大島海峡錨泊中の貨物船の走錨による乗揚げ、衝突3隻といった事故が発生しています。

これらの事故は、荒天時に発生したことを踏まえ、事業者やマリンレジャー愛好者に対して「気象・海象の確認」「荒天時の係留強化」「走錨注意」の呼びかけを強化しました。

これらに加え、基本的遵守事項として「発航前点検の徹底」「見張りの徹底」等と呼びかけ、船舶事故防止活動を継続していきます。

(2) 人身事故

昨年は、マリンレジャーに伴う海浜事故防止（特に観光客に対して）に取り組み、前年比4人減となっています。

しかしながら、死亡者が3人発生していること、海の事故は一步間違うと死亡事故に発展する可能性が高いことを鑑み、引き続き、奄美群島内の関係機関（自治体、警察、消防、宿泊施設、マリンショップ、レンタカー会社、航空会社等）と連携し、「子供から目を離さない」「ライフジャケットの着用」「気象・海象の確認」「体調管理」等と呼びかけマリンレジャーでの事故防止活動を継続していきます。